

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

孤立型微動¹⁾の発生回数が多くなっていますが、その他の観測結果に特段の変化は認められず、噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が続いています。

火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

○活動概況

・地震・微動活動の状況（図1）

孤立型微動は、2007年8月頃から一日あたり概ね200回を超える状態で経過し、1月末には一時的に300回以上に増加しました。その後200回前後で経過していましたが、3月31日から600回程度と多くなっています。

火山性地震は少ない状態で経過し、また、火山性連続微動も振幅は小さい状態が続いています。

・噴煙活動の状況（図1）

噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色、ごく少量で高さは概ね100mで推移しています。

・中岳第一火口の状況（図1）

中岳第一火口の湯だまり²⁾量は10割、表面温度³⁾は45℃（4月2日の観測による）と変化はありません。湯だまり内で土砂噴出⁴⁾は観測されていません。中岳第一火口の南側火口壁では引き続き赤熱現象⁵⁾を観測しています。赤熱現象は南側火口壁でごく局所的にみられ、温度³⁾は260～269℃（3月の観測による）です。

・火山ガスの状況（図1）

4月3日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり概ね400トン（2月14日は500トン）で、やや少ない状態が続いています。

- 1) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期0.5～1.0秒、継続時間10秒程度で振幅が5μm/s以上のものを孤立型微動としています。
- 2) 活動静穏期中岳第一火口には、地下水などを起源とする約50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいます。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少や濁りがみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られています。
- 3) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 4) 火山ガス等の噴出に伴い火口底の土砂を噴き上げる現象です。
- 5) 地下から高温の火山ガス等が噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象です。

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所および阿蘇火山博物館のデータを使用しています。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)にも掲載しています。

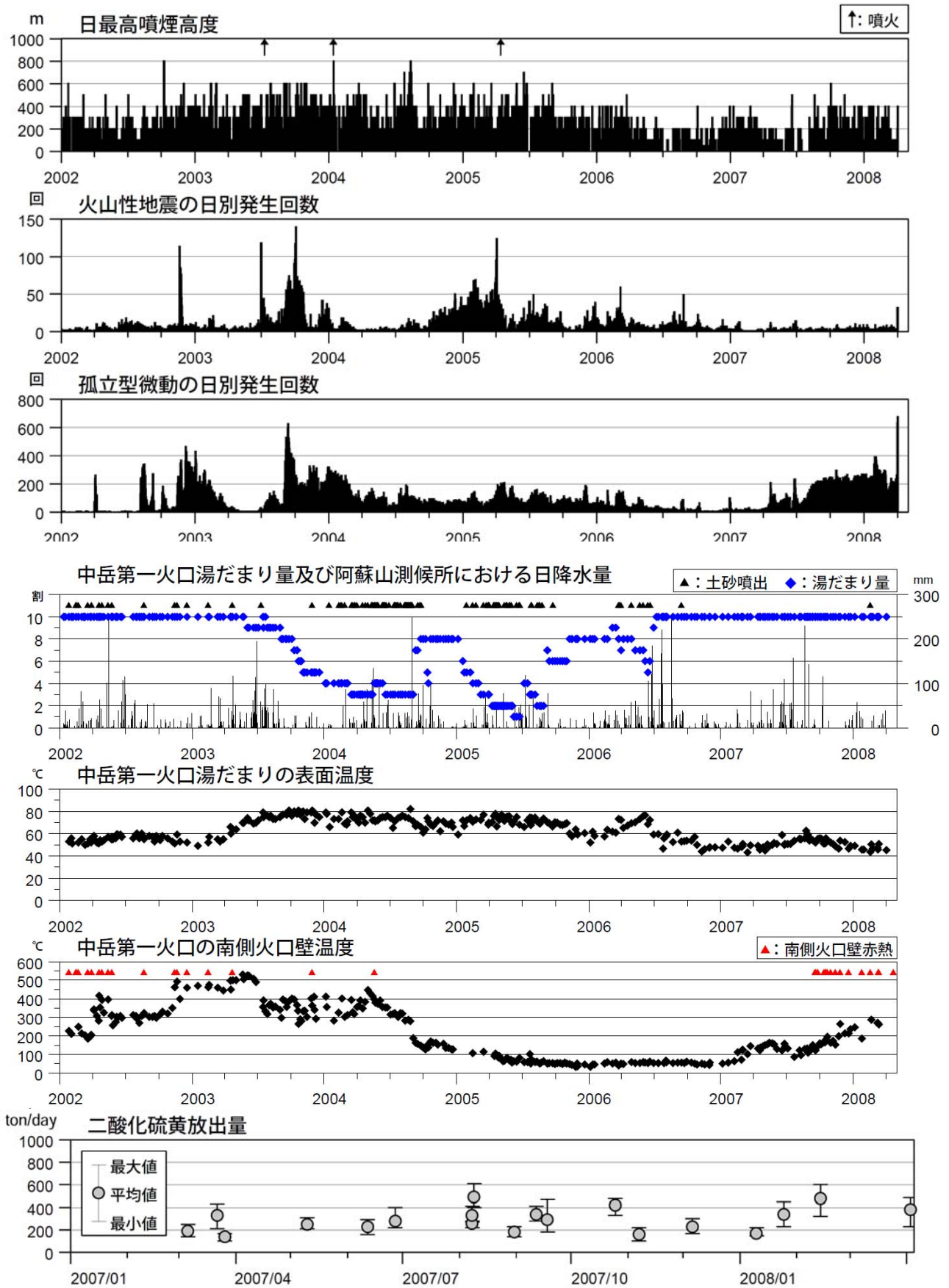


図1 阿蘇山 火山活動経過図(2002年1月1日~2008年4月3日)